神奈川県立平塚ろう学校　第１回学校運営協議会　開催報告

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立平塚ろう学校における第１回学校運営協議会
開催期日	令和２年６月 12 日（金）
開催場所	書面開催
出席者	神奈川県立平塚ろう学校　学校運営協議会委員９名
次回開催予定日	令和２年 10 月中旬
問合せ先	平塚ろう学校　　副校長　　吉田 電　話　　0463-32-0913 ＦＡＸ　　0463-32-1646 電子ﾒｰﾙ　hirarou-sd@pen-kanagawa.ed.jp
議題	（１）平塚ろう学校グランドデザインについて （２）学校教育計画（Ｒ２～Ｒ５）について （３）令和２年度学校目標について （４）年間計画及び実施日程（予定）について （５）平塚ろう学校不祥事ゼロプログラムについて
審議（会議）経過	＜平塚ろう学校グランドデザイン＞ 意見）・新型コロナウィルスを想定した「新しい生活様式」への対応力を育まれることも大切だと思います。 ・学校教育目標に繋がる学びを実体験から学べるような環境づくりが大切だと感じました。 ・平塚ろう学校のミッションを基に教育の特色を踏まえ、とても分かりやすくまとまっていると思いました。微力ながら、何かご協力できたらと思っています。 ・聴覚障害教育の専門性を生かし、自立と社会参加に向けたコミュニケーション能力の育成に努めていただきたいと存じます。 ・情報機器を活用する等、コミュニケーション能力を育ててもらいたい。 ・特になし（１） 質問）・中学部より編入して平塚ろうに通い始めましたが、毎日どのような授業をしているのかが、先生によって見えてこない部分がある。教育目標にある専門性を生かした指導は、どの程度行われているのでしょう。 →A）学校からの情報発信という点では、昨年度も課題に挙げられています。通信や配付物の内容の工夫や「平ろう

	メール」の配信、ホームページへの掲載等、改善へ向けて取り組んでいるところです。また、担任等個別に質問や相談をしていただいて構いません。 　専門性を生かした指導という点では、校内で研修会を設定したり、今年度は、手話アドバイザーを設置し、新転任の教員を中心に、授業の充実に向けたアドバイスを行ったりしています。 ＜学校教育計画＞ 意見）・進路指導面では、働き方の新しいスタイル等に関する不安等を取り除くことも大切だと思います。 ・県内全域という広域なエリアや幼稚部から高等部という年代の幅広さを支えていくうえで「地域との協働」という点でご協力していきたいです。 ・日本語の習得、獲得した日本語の活用というところに御校の特性を感じました。新しい４年間の目標を達成されることを願います。 ・特になし（３） ＜令和２年度学校目標＞ 意見）・最近、外国籍又は外国にルーツを持つ児童について、発達支援を必要とされる方が増えています。有効な支援のためにもご家庭との連携が重要となってきます。「ともに生きる社会」をめざし、地域のニーズに応えてまいりたいと思います。 ・上記にも上げましたが「地域との協働」という点で何か連携してできることを考えていきたいと思います。 ・個に応じた視覚的支援の具体的な展開と機動的な学校運営に期待します。 ・特になし（２） 質問）・達成（平成 28 年度～31 年度）したか。 →A）４年間の評価について、５項目中４つの視点については「60～80%おおむね達成した」という評価、１つの視点については「60%未満課題が残る」という評価をしています。 　ICT の活用等、更に改善が必要な点や「ともに生きる社会」の実現に向けて「切れ目ない支援体制」の構築や

	教員の働き方改革等、新たな課題について、これからの４年間の学校教育計画に盛り込みました。 ＜年間計画及び実施日程（予定）＞ 意見）・特になし（３） ・学校運営協議会　３回／年　承知しました。 ・今年度、残りの運営協議会にも、できる限り出席させていただきたいと思います。 ・了解いたしました。 ＜平塚ろう学校不祥事ゼロプログラム＞ 意見）・１年を通して不祥事防止に取り組み、担当も全職員が関わることで団結し、未然に防ぐことに繋がると感じました。 ・生徒さんたちの指導や教育をはじめ、個人情報の保護、ハラスメントの面など幅の広いプログラムになっており、参考にさせていただいております。 ・具体的行動がよくねられていると感じました。（月毎の目標、内容） ・特になし（２） 質問）・不祥事を起こした場合どうするか。 →A）不祥事が発生すれば、原因を調べて明らかにし、再発防止に努めることはもちろんですが、何より不祥事を起こさないための取組を工夫し充実させていきます。 ＜その他＞ 質問）・コロナ禍により、マスク着用が一般的になってきましたが、ろう者の方々は、手話として、口元や表情も対話になっていると思います。現状で生徒さんにストレスが溜まったりしてはいないのでしょうか。伝わり難い状況から来るストレスへの対応はどのようにされていらっしゃいますか。 当社社員にも同様の声があると考えています。ご参考にさせて頂きたくお願い致します。 →A）授業中、教員はできるだけクリアマスクやフェイスシールドを使用するようにしています。ご指摘のように、ろう・難聴者にとって口型や表情は大切な情報源ですの

	で、生徒によると不織布マスクは、情報量が 60～70%になるようです。しかし、これはコロナ禍だからということではなく、常日頃感じていることです。むしろ、この機会に、ろう・難聴者は普段から制約の中で生活していることや社会全体が不便さの中で生活していく気づきやヒントとして捉えていただけたらと考えています。 ・新型コロナウィルス感染防止策等もありお忙しい中、通知文や資料等の作成ありがとうございました。 ・新型コロナウィルス感染症の影響で、新しい生活様式となり、普段からマスクの着用となりましたが、ろうの皆様にとっては読唇ができず、たいへんなご苦労がおありかと心配しています。 ・「耳マーク」を広報していきたい と思います。 耳マーク ・今後ともよろしくお願いいたします。 ・新型コロナウィルスの関係で、幼児・児童・生徒のみなさん、ご家族のみなさん、校長先生はじめ教職員のみなさん、たいへんなご苦労をされていると推察いたします。まだまだ予断は許されませんが、どうぞみなさまご自愛なさりながら、それぞれお取り組みいただければと存じます。 ・上記の教育プログラムに関して、地域からは特に意見等はありませんが、先生方の努力の結果、生徒たちの素晴らしい才能が開かれ、ぜひそれを地域の人々に知ってもらいたいと思っており、自治会としては、それに向けた努力をしてまいりたいと思っております。